

令和4年定例会 12月定期議会

産業建設常任委員会調査報告書

令和4年12月15日

産業建設常任委員会

# 産業建設常任委員会 活動状況

〔報告期間〕 令和4年9月8日～令和4年12月1日

| 日時                     | 活動区分              | 内 容   | 頁 |
|------------------------|-------------------|---|---|
| 9.8(木)<br>15:54~16:20  | 協 議               | <p>《委員のみ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 9月定期議会中における調査事項について</li> <li>■ 決算審査特別委員会委員長の選任について</li> </ul> <p>〔出席者〕 佐々木好博副委員長ほか委員6名</p>   | - |
| 9.14(水)<br>9:58~16:25  | 所管事務調査①<br>(議案調査) | <p>《産業経済部》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株式会社とよま振興公社の経営状況について</li> <li>■ 市の境界変更について</li> <li>■ 市の境界変更に伴う財産処分の協議について</li> <li>■ 一般会計補正予算について</li> <li>■ 宅地造成事業特別会計補正予算について</li> </ul> <p>《農業委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一般会計補正予算について</li> </ul> <p>《建設部》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 登米市営住宅条例の一部を改正する条例について</li> <li>■ 登米市特定公共賃貸住宅条例の一部を改正する条例について</li> <li>■ 一般会計補正予算について</li> </ul> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員7名<br/>産業経済部 遠藤部長ほか6名<br/>農業委員会 遠藤事務局長ほか2名<br/>建設部 伊藤部長ほか6名</p> | - |
| 9.16(金)<br>10:00~14:38 | 所管事務調査②<br>(議案調査) | <p>《農業委員会》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 所管事業の令和3年度決算について</li> </ul> <p>《建設部》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 所管事業の令和3年度決算について</li> <li>■ 一般会計補正予算について (追加)</li> <li>■ 過失による物損事故について</li> </ul> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員7名<br/>農業委員会 遠藤事務局長ほか2名<br/>建設部 伊藤部長ほか6名</p>   | - |

| 日 時                     | 活動区分              | 内 容   | 頁 |
|-------------------------|-------------------|---|---|
| 9.21(水)<br>10:00~15:39  | 所管事務調査③<br>(議案調査) | 《産業経済部》<br>■所管事業の令和3年度決算について<br>■一般会計補正予算について(追加)<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員7名<br>産業経済部 遠藤部長ほか7名          | - |
|                         | 協 議               | 《委員のみ》<br>■市内企業訪問先について<br>■登米市産業振興会との意見交換会テーマについて<br>■生産資材価格高騰対策等に関する要請書について<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員7名 |   |
| 10.17(月)<br>13:30~15:39 | 所管事務調査④           | 《産業経済部》<br>■指定廃棄物の処理に関する環境大臣要望について<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員7名<br>産業経済部 遠藤部長ほか3名                         | - |
|                         | 協 議               | 《委員のみ》<br>■事務事業評価のとりまとめ①<br>■意見募集に係るテーマの選定について<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員7名                               |   |
| 10.24(月)<br>10:00~17:00 | 協 議               | 《委員のみ》<br>■事務事業評価のとりまとめ②ほか3件<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員6名   | 5 |
|                         | 所管事務調査⑤           | (現地調査)<br>■企業訪問<br>・ヤマカノ醸造株式会社<br>・東京発條株式会社 宮城工場<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員6名<br>産業経済部 衣川専門監ほか1名          |   |
| 10.31(月)<br>13:30~14:54 | 協 議               | 《委員のみ》<br>■事務事業評価のとりまとめ③<br>〔出席者〕佐々木幸一委員長ほか委員7名   | - |

| 日 時                       | 活動区分    | 内 容  | 頁  |
|---------------------------|---------|--|----|
| 11. 8 (火)<br>13:30~13:50  | 要請活動    | <p>《要請先：環境省》</p> <p>■指定廃棄物処理に係る環境大臣への要請活動</p> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員 6 名、關議長<br/>熊谷市長、<br/>産業經濟部 菅原農政課長ほか 1 名</p> | 8  |
| 11. 9 (水)<br>9:50~12:00   | 行政視察    | <p>《視察先：新潟県上越市》</p> <p>■上越市スマート農業プロジェクトについて</p> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員 6 名、關議長<br/>産業經濟部 菅原農政課長</p>               | 11 |
| 11. 11 (金)<br>13:18~14:35 | 所管事務調査⑥ | <p>《建設部》</p> <p>■立地適正化計画について</p> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員 7 名<br/>建設部 伊藤部長ほか 5 名</p>                                | -  |
| 11. 21 (月)<br>14:00~16:00 | 意見交換会   | <p>■市内道の駅 駅長との意見交換会</p> <p>〔出席者〕 佐々木幸一委員長ほか委員 6 名<br/>道の駅米山 山崎駅長ほか 3 名</p>                                       | 16 |

## 産業建設常任委員会 活動概要

### 【所管事務調査⑤】

1. 日 時：令和4年10月24日（月） 午前10時～午後5時
2. 場 所：迫庁舎 第3委員会室、ヤマカノ醸造株式会社、  
東京発條株式会社 宮城工場
3. 協議・事件  
    <委員のみ>  
        (1) 事務事業評価のとりまとめほか3件  
  
    <現地調査>  
        (1) 企業訪問
4. 参加者：委員長 佐々木幸一、副委員長 佐々木好博、  
            委員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、及川昌憲、相澤吉悦  
            (欠席) 委員 佐藤千賀子  
  
            (産業経済部) 地域ビジネス支援課 産業戦略専門監 衣川智博、  
                        地域ビジネス支援課 課長補佐兼係長 守屋乃扶子  
  
            (議会事務局) 政策・改革係長 主藤貴宏
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

## ■企業訪問

### ○概要

市内企業の現状を把握するため、本年度2度目の企業訪問を実施した。

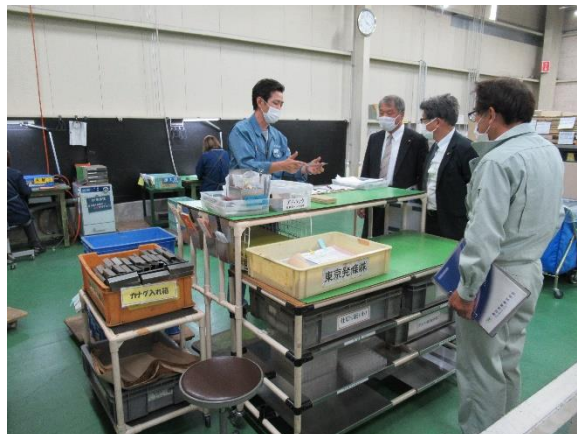
今回は、ヤマカノ醸造株式会社と東京発條株式会社 宮城工場の2社を訪問し、「コロナ禍における経営の現状・課題」、「雇用状況・人材確保」などについて意見交換を行った。

その後、製造現場を見学し、各社のものづくりに対する理解を深めた。

#### 【ヤマカノ醸造株式会社】



#### 【東京発條株式会社 宮城工場】



### ○所見

ヤマカノ醸造株式会社の経営理念として、社会貢献、売れる商品づくり、輸出への参入準備、原点回帰（品質、手づくり）、観光事業とのコラボレーションの視点を持っており、それぞれの考えを伺った。

課題としては、若い人材の確保が困難、震災後の水産加工品販売の落ち込みによる自社商品の取引変化、物価高騰による納品価格の値上げ交渉の苦勞など、経営面でもいろいろと大変な状況にあることを感じた。

なお、ヤマカノ醸造株式会社の工場建物が食品衛生優良施設として、厚生労働大臣表彰を受賞している。

東京発條株式会社宮城工場は、精密板金製品の生産、プレス金型製作、精密メカ部品組立などを得意とする会社で、受注生産による多品種少量生産が特色である。

従業員は市内が9割、その他10数名が人材派遣、2～3名が海外からの技能実習生とのことだった。若い人材を求めているが、応募が少ないのが悩みの種であるという。

行政に対しては、海外の技能実習生が更新時に利便性の高い都市部での勤務を希望する傾向にあるため、市民バス運行ダイヤの見直しによる利便性の向上、また、外から人材が集まるような少子化対策や定住対策などの施策を講じるよう求められた。

本年度訪問した企業4社に共通した点は、ものづくりの現場に若い人材が集まりにくいという実態であった。あらゆる対策で、雇用の課題に対応する必要がある。

## 産業建設常任委員会 活動概要

### 【要請活動】

1. 日 時：令和4年11月8日（火） 午後1時30分～午後1時50分
2. 場 所：環境省 24階 省議室
3. 内 容：指定廃棄物処理に係る環境大臣への要請活動
4. 参 加 者：委員長 佐々木幸一、副委員長 佐々木好博、  
委 員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、及川昌憲、相澤吉悦、  
議 長 關 孝  
（欠 席）委 員 佐藤千賀子  
  
（市 執 行 部）市 長 熊谷盛廣、  
産 業 経 済 部 農 政 課 長 菅原智弘、  
産 業 経 済 部 農 政 課 農 産 園 芸 係 主 幹 兼 係 長 菅原 仁  
  
（議 会 事 務 局）政 策 ・ 改 革 係 長 主藤貴宏
5. 概 要：（別紙のとおり）
6. 所 見：（別紙のとおり）



## ○概 要

指定廃棄物（汚染稲わら）の一時保管については、国の処理開始時期を2年後と見据えた中で、地域住民の了承を得て一時保管に取り組んできたが、長期管理施設の建設地も決まらないなか、原発事故から11年が過ぎている。

当初の想定を大きく上回る長期保管に伴い、保管施設の老朽化や豪雨等の自然災害による二次災害への不安も高まっていることから、主体的責任がある国に対し、指定廃棄物を早期に処理するよう市長、議長とともに要請したもの。

### 指定廃棄物の早期処理に関する要請事項

- 1 指定廃棄物の処理のプロセスや指定廃棄物長期管理施設の設置について、国が主体的責任を持って住民に説明し、早期に進めること。
- 2 国に引き渡されるまでの間の指定廃棄物の保管については、一時保管者である登米市が行っているが、これに伴う業務量は多大なものとなっている状況である。保管場所の修繕や苦情等への対応などを含め、国が自ら管理等に当たるとともに、説明責任を果たすこと。
- 3 指定廃棄物の放射能濃度が 8,000 Bq/kg以下に減衰しても、指定を解除することなく、国が責任を持って最終処分すること。



## ○所 見

指定廃棄物処理については、2年間の一時保管という約束が果たされないまま、11年という歳月が経ってしまった。

これまで本市からは早期解決を図るべく、再三、国に対して要望活動を実施してきたが、なかなか進展が見られない状況から、市長と共に直接環境大臣へ要請を行うこととなった。

大臣からは、「最低でも個人保管分を早期に解消する」と前向きな回答を頂いたが、

分散している個人保管を市内の1箇所にまとめる案であった。

これは一歩前進と捉えることもできるが、本来、国において処理する「放射性物質汚染対処特措法」の主旨からは程遠いものであり、根本的な解決には至らない。

本市としては、根本的な解決を目指し、引き続き要請活動を展開していかなければならない。

# 産業建設常任委員会 活動概要

## 【行政視察】

1. 期 間：令和4年11月9日（水）
2. 視察先および内容  
（1）新潟県上越市「上越市スマート農業プロジェクトについて」
3. 参 加 者：委員長 佐々木幸一、副委員長 佐々木好博、  
          委 員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、及川昌憲、相澤吉悦、  
          議 長 關 孝  
          （欠 席）委 員 佐藤千賀子  
  
          同 行 産業経済部農政課長 菅原智弘  
          随 行 政策・改革係長 主藤貴宏
4. 概 要：（別紙のとおり）
5. 所 見：（別紙のとおり）

## 【新潟県上越市】上越市スマート農業プロジェクトについて

■日 時：令和4年11月9日（水） 午前9時50分～正午

■場 所：上越市板倉区総合事務所

■説明対応：上越市農林水産部農政課 課長 栗和田謙二  
上越市農林水産部農政課 主任 中島幸仁  
上越市農林水産部農政課 農業生産振興係 係長 古川 学  
農事組合法人高野生産組合 代表理事 梨本一好

### ○概 要

上越市では、令和元年度から令和2年度にかけて、技術発展が目覚ましいロボット農機やAI、IoT等の先端技術を実際の生産現場に導入し、その効果を実証する農林水産省「スマート農業技術の実証プロジェクト」を実施した。

また、この実証で得られた知見を基に令和3年度に「先進的スマート農業タウン推進事業」を創設したほか、「スマート農業相談窓口」を開設し、スマート農業の先進地として、農業現場での幅広い普及拡大に取り組んでいる。

### 《背景及び取組概要》

- ・上越市の水稻作付面積は、全国第4位。県内でもいち早く、基幹品種のコシヒカリのみならず、飼料用米や業務用米等の需要に応じた米生産に取り組んできた。しかし、これら用途別の米生産においては、収量・品質の安定確保と生産コスト削減の両立が課題となっていた。
- ・生産者の高齢化の伴い、担い手を確保していくには、「経験と習熟度」に頼りきった農業ではなく、スマート農業技術を導入した新しい栽培技術体系の下、参入できる環境整備が必要である。
- ・既に、平野部の35%は1ha区画となっており、基盤整備事業の実施により、今後も進展するほ場の大区画化とスマート農業技術による米生産の相乗効果について実証を通し検証した。

### 《実証目標》

- ①V溝乾田直播と移植栽培の組み合わせにより作期分散を行い、60kg当たりの生産コスト削減を目指す。
- ②V溝乾田直播栽培：7,900円/60kg（10a当たり収量：645kg）  
移 植 栽 培：9,400円/60kg（10a当たり収量：585kg）

## 《実証項目別の成果》

### ①K S A S（ほ場管理システム）によるほ場管理の効率化とスマート農機との連動実証

- 事務作業時間が削減され、作業の効率化につながった。
- メッシュマップデータを活用し、施肥量の調整作業等の時間が削減できた。

### ②自動操舵（直進キープ）トラクターによる技術体系の確立

- 代掻きなどの各作業において、労働時間の10%以上の低減が達成できた。

### ③直進キープ・可変施肥田植え機による労働力削減効果及び生育均一化の実証

- 移植作業などの各作業において、労働時間の10%以上の低減が達成できたとともに、「まっすぐに植えなければいけない」というオペレーターの精神的負担の軽減にもつながった。

### ④水管理システムによる労働力削減効果の実証

- 手動開閉の給水栓に比べ、79%の水管理時間削減の効果が確認できた。
- ほ場の管理枚数が増えるほど、遠隔操作型の有効性が発揮される。

### ⑤マルチローター（ドローン）による農薬・穂肥散布効果の実証

- 完全自動飛行で、正確な散布による防除効果が確認できた。
- 穂肥散布前後のセンシング結果から、散布漏れや重複散布がなく、均一な散布状況が確認できた。

※センシングとは、ほ場を空撮したデータにより生育状態を見える化し、作物の生育に応じた最適な肥料散布につなげること。

### ⑥食味・収量コンバインによる品質・収量確保の実証

- ほ場ごとに収量及び食味のばらつきを確認することができた。

### ⑦レーザー受光感応装置付きハローによる大区画ほ場の均平化

- 超大区画ほ場（4ha）でも、最大高低差が3.8cmと、大きさに関わらず高い均平精度の確保につながった。
- 均平を実施したほ場では、直播栽培で発芽率が高くなり、除草剤の使用回数が減るなど、コスト低減につながる有効な技術であることが確認できた。

## 《実証結果から見たスマート農業の可能性》

実証年度においては、ほ場の不安定な条件が重なり、収量が確保できなかったため、目標の60kg当たり生産コストの達成に至らなかったが、作業時間の削減等の面では有効性は確認できたことから、今後、次のような効果が期待される。

- ①余剰時間による水稲作付面積の拡大及び園芸等を導入した複合経営化
- ②収量の安定確保による経営の安定化
- ③直進キープ機能（トラクター・田植機）の活用による作業者の疲労感の軽減
- ④熟練度に左右されない作業の平準化
- ⑤労働安全（農作業事故防止）につながる



## ○所 見

農業人口が減少の一途をたどる中、本市の農業基盤を維持していくためにもスマート農業の取組は重要である。

上越市では、現在実現されている技術が最大限生かされるように、ハード面では機器類の導入と合わせ、それを活用できるほ場づくり、ソフト面では省力化・低コスト化に向けた栽培技術と管理方式を導入し、実践していた。

大変参考になる取組であったが、スマート農業によって本市が目指す農業は、省力化や低コスト化だけではない、更に先の有機農業者や環境に配慮する循環型農業をめざすべきである。

そのためには、農業分野における最新技術（ICT）の活用した本市農業の理想像をビジョン化していことことが必要ではないか。

## 産業建設常任委員会 活動概要

### 【意見交換会】

1. 日 時：令和4年11月21日（月） 午後2時～午後4時
2. 場 所：迫公民館 2階 軽運動場
3. 事 件：市内道の駅 駅長との意見交換会
4. 出席者：委員長 佐々木幸一、  
委 員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、佐藤千賀子、及川昌憲、  
相澤吉悦  
(欠席) 副委員長 佐々木好博、  
(市内道の駅) 道の駅米山 駅長 山崎準一郎、道の駅津山 駅長 西條孝一、  
道の駅林林館 駅長 菅野忠美、  
道の駅みなみかた 駅長 永浦清太郎  
(議会事務局) 政策・改革係長 主藤貴宏
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)



## ■市内道の駅 駅長との意見交換会

### ○概要

長引くコロナ禍や世界的な原材料価格の上昇等の状況下における市内道の駅の現状（売上げ、入込客数）や道の駅が抱える課題を把握することを目的に、市内道の駅の駅長と意見交換を行ったもの。

### 【市内各道の駅の入込客数と売上額の推移等】

| 施設名                | 道の駅米山  | 道の駅津山   | 道の駅林林館  | 道の駅<br>みなみかた  | 道の駅三滝堂  |            |
|--------------------|--|---|---|---|---|------------|
| 施設概要               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産販売、</li> <li>・レストラン、</li> <li>・パン工房、</li> <li>・軽食コーナー</li> <li>・蕎麦打ち体験室</li> <li>・屋外トイレ</li> <li>・電気自動車急速充電器 (H24. 8)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工品販売施設</li> <li>・野菜販売施設</li> <li>・情報センター</li> <li>・食品加工普及施設</li> <li>・高齢者加工活動施設</li> <li>・郷土文化保存伝習館</li> <li>・屋外トイレ</li> <li>・電気自動車急速充電器 (H28. 2)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産販売</li> <li>・レストラン</li> <li>・立食コーナー</li> <li>・屋外トイレ</li> <li>・電気自動車急速充電器 (H28. 5)</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産販売</li> <li>・レストラン</li> <li>・パン工房</li> <li>・餅工房</li> <li>・惣菜工房</li> <li>・屋外トイレ</li> <li>・電気自動車急速充電器 (H28. 5)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物産販売</li> <li>・レストラン</li> <li>・軽食提供施設</li> <li>・コンビニ</li> <li>・屋外トイレ</li> <li>・キャンピングカー等滞在施設</li> <li>・緑地広場(ドッグラン含む)</li> </ul> |            |
| 駐車場                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通車 110 台</li> <li>・大型車 8 台</li> <li>・身障者用 5 台</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通車 128 台</li> <li>・大型車 12 台</li> <li>・身障者用 2 台</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通車 93 台</li> <li>・大型車 8 台</li> <li>・身障者用 4 台</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通車 67 台</li> <li>・大型車 6 台</li> <li>・身障者用 3 台</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通車 42 台</li> <li>・大型車 38 台</li> <li>・身障者用 2 台</li> </ul>   |            |
| 入込客数               | R1   | 207,000 人   | 173,415 人   | 170,345 人   | 335,469 人   | 880,621 人  |
|                    | R2   | 189,611 人   | 138,877 人   | 118,517 人   | 290,919 人   | 866,351 人  |
|                    | R3   | 170,989 人   | 132,969 人   | 109,070 人   | 293,032 人   | 871,689 人  |
| 売上額<br>(物販・飲食)     | R1   | 273,445 千円  | 62,910 千円   | 110,637 千円  | 178,139 千円  | 494,909 千円 |
|                    | R2   | 266,022 千円  | 52,629 千円   | 83,294 千円   | 163,238 千円  | 486,890 千円 |
|                    | R3   | 238,126 千円  | 58,504 千円   | 81,942 千円   | 162,848 千円  | 489,889 千円 |
| 出品者数<br>(R2. 8 現在) | <b>【会員】</b><br>市内 149 者<br>市外 24 者<br><b>【業者】</b><br>市内 2 者<br>市外 6 者<br><br><b>【計】</b><br>合計 173 者  | <b>【会員】</b><br>市内 45 者<br>市外 5 者<br><b>【会員外】</b><br>市内 18 者<br>市外 2 者<br><b>【業者】</b><br>市内 6 者<br>市外 5 者<br><br><b>【計】</b><br>市内 69 者<br>市外 12 者<br>合計 81 者   | <b>【会員】</b><br>市内 51 者<br><b>【会員外】</b><br>市内 3 者<br>市外 2 者<br><b>【業者】</b><br>市内 6 者<br>市外 12 者<br><br><b>【計】</b><br>市内 60 者<br>市外 14 者<br>合計 74 者 | <b>【会員】</b><br>市内 83 者<br>市外 77 者<br><br><b>【計】</b><br>合計 160 者   | <b>【会員】</b><br>市内 157 者<br>市外 16 者<br><b>【業者】</b><br>市内 26 者<br>市外 31 者<br><br><b>【計】</b><br>市内 183 者<br>市外 47 者<br>合計 230 者  |            |

|          |  |   |   |   |  |
|----------|--|---|---|---|--|
| 販売品目等の特色 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々の旬な新鮮な野菜</li> <li>・地場産の豚肉、いちご、トマト</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・木工品が売上数、売上額ともに上位</li> <li>・春、夏、秋の旬の野菜が中心</li> <li>・春先には山菜も多い</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々の旬な新鮮な野菜</li> <li>・地元で取れた山菜、きのこ等</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・四季折々の旬な新鮮な野菜</li> <li>・施設内工房で作るできたての餅や惣菜</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を通じて市内の新鮮な野菜</li> <li>・南三陸地域の海産物等</li> </ul> |
|----------|--|---|---|---|--|



## ○所 見

市内道の駅の現状と課題について、駅長と意見交換を行った。

まず、長引くコロナ禍により、入込客数・売上ともに落ち込んでいる道の駅がほとんどであった。そんな中、本年度に入って行動制限の緩和を受け、徐々に客足が戻っており、今後に期待を寄せていた。

そして、施設の老朽化、駐車台数の不足、店舗面積の不足、会員の高齢化、電気料の高騰、インボイスへの対応など各施設から固有の課題が出された。

今回出された課題の把握と今後の方向性を探るために、各道の駅を訪問し、現地調査することとした。

市内に5つの道の駅があることを最大限生かし、さらに連携することで、魅力ある道の駅として進化することを期待したい。